



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8114
長崎市橋口町1-1
長崎大司教館内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-842-4460
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 インテックス

祈りの意向	
・教皇	・日本
みことばによる祈りが生活の糧となり、共同体の希望の源となつて、互いを大切にしながら使命に生きる教会を築けるように	新しい年の始めにあたり聖母の取り次ぎを願つて祈ります。私たちが互いを思いやつて平和と幸せを求め、心穏やかに過ごせるように

2026 年頭の手紙

今年も声をかけよう

大司教 ペトロ 中村 倫明



24 年度 県内不登校 最多 4113 人

これは、昨年 10 月末の長崎新聞第 1 面の見出しです。4113 人の皆さまには、他人にはわかつてもらえないいろんな苦しみや悩みがあることでしょう。いや、登校できている皆さまにだって、心に抱えている問題も多いと思います。校内でのいじめ認知の件数も増えていて、これも不登校の一因となっているようです。

それでは

24 年度 長崎教区ミサ 不参加は何人？

2024 年度は、信徒総数 5 万 5215 人のうち、主日のミサ参加人数は、2 割の 1 万 1350 人。ですから、残りの 8 割、4 万 3865 人の方が不参加ということです。教会では、参加者よりも、不参加の皆さまの方が多いいんです。

原因

根本的な最大の原因は、信者であるこのわたしたち自身ではないかと思ひます。お詫び申し上げます。「教会は面白くない」と言う子どもたちの声をよく耳にすることがあります。「面白い」というのは、滑稽でゲラゲラ笑えるということではないでしょうが、教会って本当は楽しいところなんです。神さまってワクワクするお方なんです。でもその「教会は魅力的で神さまはものすごいお方なんだ」ということを、このわたしたち自身が自分たちの言葉や表情を通して証しできていないのです。おゆるしくください。

数年前の新型コロナウイルスの感染拡大も、信仰生活において大きな影響を及ぼしました。ミサの参加者は、信徒総数の少なくとも 3 割はいました。これが 2 割になったのは、まさに新型コロナウイルスの 2020 年からです。

公共施設や医療機関と同じように、教会においても集会を控えることがすすめられ、やむを得ず主日のミサ参加免除の時期がしばらくありました。そのことが「無理に教会に通う必要はない」との意識の変化を促したかもしれない。そんな新型コロナウイルスが終息した今でも参加者は 2 割のままでハラや誹謗中傷、悪口、噂話、諍い

などで互いに傷つけ合っていることもあります。重ねて申し訳ございません。

対策（愛の声かけ）

学校の不登校に対しては、国や自治体もフリースクールを設置するなど対策を講じているようですが、まだまだ一人ひとりに寄り添っていく教育になっていないようです。

教会が一人ひとりに寄り添っていくものになるために、まず確認しておきたいのは、教会は学校ではなく、神さまの家族であるということ。わたしたちは神さまから望まれて生まれた神さまの子どもです。家庭において自分の親から「愛しているよ」と声をかけてもらって生まれ、「愛しているよ」と抱きしめてもらって育ててもらい、「愛しているよ」と祈り支え助けてもらって生かされていくように、神さまがいつもともにいて「愛しているよ」という呼びかけに満たされている世界が信仰の世界であり、神の家族の姿です。ですから、大切なのは、神さま

の「愛しているよ」という呼びかけを確認し、わたしたちもお互いに「わたしたちも愛しているよ」という声かけをすることです。

信仰は強制ではありませんので、その声かけもデモや叱りつけるような強声ではなく、笑顔で、丁寧で、思いやりあるものにしたいです。人の悪口を言い合ったり、人の言動や容姿をあざ笑ったりする、愛とは真反対の声かけではなく、人に希望や勇気を与え、人をしあわせにするあたたかい声かけを心がけたいです。

そういう意味では、まだまだあたたかい声かけが届いていない 8 割のわたしたちの教会家族やたくさんの人々がいます。教会に來ている人にだって、あたたかい声かけが必要です。どうぞ、今年も声をかけていきましょう。

分かち合い

お一人のお母さまから、素敵なお手紙をいただきました。そのお母さまには、中学生の息子さんがおられるそうです。息子さんは、いろんな理由もあって、学校も休みがちですが、ある時、学校のお友だちに「今度、バザーがあるから教会に來ない!？」と声をかけたそうなんです。お母さんは、そのことについてのお気持ちを分かち合ってくださいました。

「母親の私は、恥ずかしながら、『時々しか学校に行っていないあなたに、友達をバザーに誘うなんて...』と、正直思いました。しかし、それから数日間よくよく考えてみると『あつ!! 息子は、声かけをしている!! 宣教をしている!!』ととても嬉しくなつたのです。私は、職場の同僚にバザーの声かけもしてないし、声かけをした息子に『あなたが言っても...』と口にはしなかつたものの、そう思ったことを恥ずかしく思いました。神様は息子を通して私に大切なことを教えてくださいました。困難な状況にあって

も、神様は息子の中ではたらいでくださっている。大司教様が『声をかけよう! 声をかけ合おう!』とおっしゃっている事を無意識に、聖霊の導きのままに行動に移した息子のこの姿に嬉しさのあまり、大司教様とこの喜びを分かち合いたくて、お便りしました。バザーにきてくれた友達は一人数だっただけです。でも、来てくれた友達の数ではなく、息子の行動が何よりもうれしい事でした。」

お手紙をくださったお母さん、ありがとうございました。

お友だちに声をかけてくださった息子さん、ありがとうございました。

そして、息子さんから声をかけてもらって教会においでくださったお友だち、ありがとうございました。

神さまが、皆さんに「ありがとう。愛しているよ」と声をかけてくださっています。

おともだちへ



あけましておめでとございいます。ことしもよろしくおねがいいたします。

ことしもはじめに

おとうさん おかあさんから「あいしているよ」とだししめてもらってくださいね。

かみさまもみなさんのことがだいすきでみなさんをギュってだししめてくださっています。すてきないちねんがありますように。

だいしきよう

ペトロ なかむら みちあき

ほしかげ

「初日の光輝きてゝ」
(カトリック聖歌 141)
幼い頃、元旦にこの聖歌を聞くと、「お正月だ」と感じていた。ミサ後、境内で振る舞われるぜんざいで暖まり、心は新しい年への夢と希望でいっぱいだったと思う。▲昨年は「聖年」として始まり、「希望の巡礼者」として、信仰と救いの恵みを味わった。このロゴマークである十字架の根元は「錨」(英語で「アンカー」)。リレーのアンカーのように、キリスト者にとって十字架は「最後の頼み」よりどころ。そこに復活の希望が隠されている。▲この「聖年」期間中の催しに、「平和作文コンクール」があった。一人の中学生は、「平和」とは、皆が神さまの愛のうちに生きること」という、自分なりの答えを持っていた。しかし、家庭でのつらい十字架の体験を通して、キリスト者でない人にも伝わる平和の手段は、相手のために祈り、話し合い、やり直す努力をすることと気づいたという。生活の中で、自分事として「平和」を考えていて、大いに感心させられた。▲一月一日は「世界平和の日」。レオ 14 世教皇様は、信頼、共感、希望を生み出す「武装を解かせる平和」を希求するよう呼びかけておられる。▲永井隆博士もおっしゃるように、まず自分の周りから「平和」を実現すべく、祈り、対話、具体的行動を、改めて自分事として実行する年にしたいと思う。「希望の年は明け初めぬ」(健)

第27回 日韓司教交流会
船は航海するもの

カトリックジャパンニュースの記事

昨年11月18日(火)から20日(木)まで、第27回日韓司教交流会が広島で開催され、日韓の枢機卿・司教たち33人が集まりました。テーマは「戦後80年の傷跡と希望、若い世代に平和をつなぐために」。



今回の交流会の中で韓国司教協議会議長・李容煥(リヨグワン)司教様(水原教区)のミサでの説教が強く心に残っています。「船は停泊しているときに最も安全だが、船は停泊するためには作られたものではない」という格言を引用して話をなされました。

「船は荒れた波を乗り越え、海を進むために存在しています。港に停泊している船は決して目的地に達することはできません。何もしなければ、何も起こらないのです。私たちの教会も、そして、日韓の両国の司教団も同じです。異なる歴史と文化、過去の痛みの中にあっても、私たちはとどまっています。ダメで、一緒に航海を続けなければならぬのです。私たちが必要なのは、安全な港に停泊している間に体験する『平和』なのではなく、将来、海に向かって進んでいくための勇気を与えてくれる『平和』なのです。私たち日韓の司教たちの交流会の歴史は、まさにその福音的価値を積極的に実践してきた『勇気ある航海』の歴史と言えます」

(中村 倫明)

写真は交流会中の研修会場で、長崎大司教区と関わりが深い大邱大司教区の2司教と撮影した1枚。中村大司教の左が曹煥吉(ソワンギ)大司教、左端が張信浩(ジャンシンホ)補佐司教。右端は中央協議会に派遣中の尾高修一神父。

パリで展示会開催
『平和の芸術、長崎1945年8月』



10月30日(木)〜11月17日(月)、被爆80年にあたり長崎のキリシタン史、原爆、永井隆に関する展示会『平和の芸術、長崎1945年8月9日11時2分』がパリ第5区区役所で開催され、さまざまな展示物が一般公開された。

主催は元バチカン図書館長ジャン・ルイ・ブリュゲ大司教が会長を務める「聖なる芸術2協会」。展示のために、浦上教会から被爆したカリスとパテナ(下段の写真)、溶けた瓶、西村勇二氏(浦上教会信徒)から被爆マ



リアのレブリカ、日本二十六聖人記念館や長崎市永井隆記念館からも史料が提供された。関係者は、「主催者は被爆からの復興と反核運動の重要性を強調したかった。期間中の入場者数は1500人ほどだったが、長崎の被爆や永井博士、そして浦上のキリシタンの歴史についてフランス人に知っていただく良い機会になった」と語っていた。

2025年度
教区司祭黙想会
昨年、3回に分かれて実施。福岡・旧カトリック神学院では10月7日(火)〜10日(金)に森山信三司教(大分)、長崎大司教館では10月21日(火)〜24日(金)に瀬戸高志師(レデンプートル会、愛宕教会主任)、11月11日(火)〜14日(金)に中野里晃祐師(コンベンツアル聖フランシスコ修道会、本河内教会主任)を説教師に迎えて行われた。26年度は6月16日(火)から19日(金)まで雲仙市で予定。説教師は、グアダルーペ宣教会のイグナシオ・マルティネス師(仙台教区本部事務局長)。

堅信の秘跡を受けて

上五島地区

上五島地区合同堅信式が11月9日(日)14時から青方教会で中村倫明大司教司式のもと行われ、中学生15人が堅信の秘跡を受けた。

大司教は説教の中で受堅者だけでなく集まった人たちに、「私たちが祈りを忘れていないだろうか、信仰を忘れていないだろうか。どんなに自分が弱っても、どんなに自分が駄目な人間だったとしても、それでも私はあなたを愛しているよ」と抱きしめてくれる神様がともにいてくださる。堅信の時にいただく聖霊はその証しである」と話した。

ミサの終わりの感謝式では、鯛之浦教会の岩村綾花さん(中学2年)が受堅者を代表し、「十字架の上のイエス様に日々のいろんな思いを語りかけながら、これからも自分や家族、たくさんの人たちのために祈りを続け、信仰を深めたいと思います」と、大司教へ感謝の言葉を述べた。



長崎南地区

長崎南地区合同堅信式が11月16日(日)14時から木鉢教会で中村倫明大司教の主司式によって行われた。地区内の10の小教区から28人(中学生26人、大人2人)が堅信の秘跡を受けた。

長崎南地区合同堅信式が11月16日(日)14時から木鉢教会で中村倫明大司教の主司式によって行われた。地区内の10の小教区から28人(中学生26人、大人2人)が堅信の秘跡を受けた。

訂正

本紙2025年12月号の記事に誤りがありました。訂正いたします。

3面「205福者のレリフ除幕式」：福者の呼称変更時期を「2023年から『福者セバスチャン木村司祭と204殉教者』に変わった」としていましたが、正しくは「2024年12月から」です。24年10月に「一般ローマ暦(改訂版)」が公表され、25年度の待降節第1主日(24年12月1日)から新しい固有名詞表記を使用することとなりました。

4面「平戸地区球技大会」：グラウンドゴルフの結果について「田平教会チームが優勝、紐差教会チームが準優勝だった」としていましたが、正しくは「田平教会Aチームが優勝、上神崎教会Aチームが準優勝だった」です。ご迷惑をおかけして申し訳ございません。深くお詫びいたします。

二〇二六年
謹賀新年

大司教 中村 倫明(37)大司教館 名譽大司教 高見 三明(53)お告げ本部	山内 清海(64)長崎市 村中 司(63)〃 峰 徳美(63)〃 平野 勇(62)〃 野下 千代(62)恵の丘 小島 栄(61)大司教館 萩原 勲(59)〃 片岡 久司(58)〃 濱崎 靖彦(57)〃 橋本 勲(56)小神学院 山川 忠(56)大村 山口 勲(53)島原 大山 繁(52)平戸 松下 光男(50)上神 小瀬良 明(50)神前 村川 昌彦(49)鹿子 関口 七郎(49)小神学院 山内 実(48)相浦 諸岡 清美(48)大浦天主堂司祭館	岩村 知彦(44)桐 鳥山 邦夫(44)八幡町 古巣 馨(44)大司教館 山脇 守(43)中町 山田 聡(42)稲佐 中村 満(41)田平 岩崎 康彦(41)馬達 川内 和則(40)平戸 久志利津男(40)時津 高野 治(40)小ヶ倉、大山 下山 盛朗(39)出津 鳥瀬 文武(39)青砂ヶ浦 牧山 強美(37)旧大神学院 福島 光明(36)植松 眞浦 健吾(36)梅崎 中濱 敬司(36)鯛之浦	紙崎 新一(35)那覇・石川 平本 義和(35)佐々 葛嶋 秀信(35)大司教館 鍋内 正志(34)深堀 山村 憲一(34)浦上 岩崎 晋吾(33)三浦町、天神 下窪 英知(33)大分・鶴崎 中田 輝次(33)福江、浜脇、井持浦 湯浅 俊治(31)宝亀 浅田 照明(31)青方、丸尾 大水 文隆(31)大浦 辻原 達也(30)諫早 川原 拓也(30)滑石 松田 聡史(29)大曾 山本 一郎(28)三井楽、貝津 嘉松 宏樹(28)小神学院 中島 誠志(28)浦頭 山田 良秋(27)水主町 川口 昭人(27)俵町 一ノ瀬輝幸(27)木鉢 岡 秋美(27)鮑の浦 熊川 幸徳(26)旧大神学院 大瀬良直人(26)太田尾 竹内 英次(25)山田 岩本 繁幸(24)大野 尾高 修一(24)中央協議会 川原 昭如(24)曾根 葛島 輝義(23)浦上 工藤 秀晃(23)浅子 鶴崎 伸也(23)紐差 竹谷 誠(22)長与、三ツ山 前田 達也(22)大司教館 本田 靖彦(22)黒崎 岩下 和樹(20)福岡・小郡、鳥栖 山口 竜太郎(20)真手ノ浦 鶴巻 健二(20)木鉢、小瀬戸 汐留 義和(19)西木場 熊谷 裕司(19)水ノ浦 谷脇誠一郎(18)日本カトリック神学院 山添 克明(17)黒島 野濱 達也(17)長崎コレジオ	岩下 裕志(16)奈留 中尾 直通(15)旧大神学院 大水 満(13)浜串 中野健一郎(12)浦上 川端 志範(11)大崎 小島 明(10)〃 燈台の聖母トラスビスト大修道院 稲田 伸也(10)滑石 山内 啓輔(9)神ノ島 下原 和希(8)仲知 宮原 大地(6)土井ノ浦 青田 憲司(5)福江 稲田 祐馬(5)イタリヤ 南 時真(4)小神学院 西田 祐尚(4)浦上 洪 燦基(新)福江 泉 類治(62)二十六聖人修道院 裕村 信也(32)〃 デ・ルカ・レンゾ(29)日本二十六聖人記念館 ●コンベンツアル 聖フランシスコ修道会 稲国 安彦(67)湯江修道院 西山 達也(65)〃 萩原榮三郎(61)小長井修道院 山内 春治(61)湯江修道院 松永 正男(56)〃 松田清四朗(51)〃 山下 公輝(47)湯江 大野 幹夫(43)湯江修道院 古川 政孝(38)〃 山浦 義春(22)東長崎 山口 雅稔(21)聖母の騎士修道院 李 信衡(14)聖コルベ志願院 中野里晃祐(2)本河内 ●聖アウグスチノ修道会 マイケル・ヒルデン(52)城山 今田 昌樹(32)〃 遠山 満(28)〃 松尾 太(8)〃	●レデンプートル会 瀬戸 高志(31)愛宕 アンジェリーノ・ノヴェントス・ロワ(6)〃 ●フランシスコ会 片岡 仁志(63)長崎修道院 村上 芳隆(43)本原 松本 巖(29)〃 古里慶史郎(24)長崎修道院 ●神言修道会 川上 栄光(52)西町 西 経一(42)長崎修道院 品田 豊(41)西町 ヨセフ・ブルーノ・ダシオン(29)〃 ティブルティウス・ヘリ(27)聖ルドヴィコ修院 ●マリア会 坪光 正躬(54)海星修道院 末吉 克久(43)〃 ●サレジオ修道会 ロロビアナ・アキレ(53)イエスのカリタス牧野修道院 ●韓国殉教者聖職修道会 金 桐旭(15)香焼 姜 吳勳(14)早岐 ●聖ビンセンシオの宣教会 アウグスチン・トゥ(4)長崎コレジオ ●オプス・デイ 小寺左千夫(29)長崎 裕 恵介(12)〃 篠崎 迪明(4)〃
---	---	---	---	---	--



()内は叙階年数

2025年長崎大司教区 平和作文コンクール受賞作品 《最優秀賞》

25年に一度の通常聖年と被爆・終戦80年を迎えた2025年、長崎大司教区は教区所属のカトリック信徒および求道者の中小高生を対象に「平和作文コンクール」を実施した。応募いただいた全140作品の中から、最優秀賞3、優秀賞7、特別賞1の合計11作品が選ばれた。コンクールに参加したすべての皆さまに感謝するとともに受賞作品を今号から3回に分けて全文掲載する。

*掲載にあたっては原文のままを基本としますが、改行や文字表記の統一など一部編集をさせていただいております。ご了承ください。(広報)

被爆80年。今できる事。

いさはやきようかい 小学3年

テレサ 片山 愛理

せんそうをしていい気持ちになる人はいません。せんそうをなくしたいけど、やっつてしまふ人がいる。神様はせんそうをするために人間を作ったのではありません。

お父さんはげんぱくしりょう館ではたらいしています。わたしのひいおじいちゃんは長崎と広島どちらでも被爆しました。ひいおばあちゃんも、長崎で被爆しました。神様やイエス様はこんな私たちを見てどう思うでしょうか。うれしいとはぜつたいに思われません。被爆マリアや被爆イエスはとても悲しい物を見られました。うらさが地ごくのようになり7万人以上の人が亡くなりました。けれど日本がアメリカ・ハワイのしんじゅわんに爆けしたから日本とアメリカのせんそうがはじまりました。日本がしんじゅわんに爆けをしなかったら長崎に原爆がおちることはありませんでした。

神様の愛のうちに生きる

浦上教会 中学3年

マリア 竹中 真理

「平和ってなんだろう」私は何度、この問いを自分に投げかけたことでしょうか。

私が通った小学校も通っている中学校も、原子爆弾の被害を大きく受けたこともあり、私は毎年平和学習を受けていました。その中で私は次第に、私なりの「平和」を実践したいと強く願うようになってきました。そしてその第一歩として始めたのが、中学二年生の冬からの「平和委員長」としての活動です。

命の尊さと

平和の重みを感じて

水主町教会 高校3年

マリア・インマクラータ 下田 佳依

せんそうとは、とめることのできない人と人のあらいすです。はじめたらおわらせるのはとてもむずかしいです。なので、わたしたちこどもがアンテナをピピッとさせていればせんそうをとめることはできるかもしれません。神様は平和になりますようにとねがっています。それでもまだ、せんそうをしているところはあります。とつぜんせんそうがはじまったらだれでも怖くなるし、とても悲しい気持ちになります。せんそうでかくをなくした人はいっぱいいるのですが、せんそうとはもう話したくないぐらい私だって世界中の人がおそれます。

そのせんそうはいろいろあります。太平洋せんそうや、第一次第二次世界たいせんといふせんそうを私たちはくりかえしくりかえしやってきました。なのでもうせんそうがはじまった時にはもうおそいのです。そして、ひばく者が少なくなっているのです。もうひばく者がい

夏休み、東京都三鷹市の中学二年生数十名とわが中学校との「合同平和交流会」でのことです。

東京上空襲についてなど、それぞれの地域が負った戦争の爪痕について伝達をし合い、意見交流へと入ろうとしたときです。三鷹市の中学生の付き添いとしてやってきた先生が私のところへ近づき、「一つの問いを投げかけました。『平和ってなんだと思

う？』不甲斐ないことに、私は言葉につまりました。一人のカトリック信者として、そして、平和委員長として「平和」とは「皆が神様の愛のうちに生きることだ」という答えを持つてはいたのです。そのため、その「神様の愛のうちに生きる」ということをキ

リスト者でない人たちにどんな言葉を選べば、私の思いが伝わるのか、日常の中で考えることが増えました。

そんなある日、平和だと思っていた我が家は一变し、不安と苦しみが続いてきました。母が体調を崩したのです。私は将来に不安を感じ、現実から逃げたい、母が心配、自分を正当化して、誰に責任があるのかと焦りました。ミサで母のた

めに祈った時、私の心は平和を手放してしまつたと感じました。そして、やり直そうと思いました。私は母の回復のために何ができるか、家族で話し合いました。母が何を必要としているのかを聞くと、私の生活習慣

全ての光を消し、お祈りを捧げたとき、戦争の犠牲になつた方々の恐怖や痛みが少しだけ分かつた気がしました。静けさの中で感じた重みは、これからも忘れません。

私はこれまで、学校（純心）の授業や行事で戦争や平和について学んできました。被爆者の方々の話を聞いた

中、「戦争はいけない」「命は大切」と分かっているつもりでした。ですが、沖繩での平和学習を通して、その言葉の重さを実感しました。

三日間の学習でたくさん

の場所を訪れましたが、特に印象に残っているのは、「ひめゆり平和祈念資料館」と「糸数壕」です。

ひめゆり平和祈念資料館では当時の写真や遺品証

言の映像などを通して、女学生たちがどのように戦争に巻き込まれていったの

かを知ることができました。証言映像では、六〇代や七〇代になつた元ひめゆり学徒の方々が、自分の体験を語る姿が映されていま

今回の平和学習を通して、今こうして安全に暮らして、友達と笑い合ひ、家族とごはんを食べて過ごせる毎日が、どれほど貴重で幸せなことなのかを強く感じました。何もない日常が平和そのものであり、多くの人の犠牲や願いの上に成り立っているのだと気づきました。

そして今年は、長崎の原爆から八〇年という節目の年です。戦争を直接体験した人が年々少なくなつていく中で、私たち若い世代が伝える側にならないといけないと思ひました。沖繩で見たこと、感じたことを言葉にして伝え続けることが、平和を守る第一歩だと思ひました。

平和は誰かが守ってくれるものではなく、一人ひとりが守ろうと思つて行動することで続いているのです。私は身近な人を思いやること、争いではなく対話を選ぶこと、そして当たり前の毎日に感謝することを大切にしたいです。

沖繩での学びと、長崎の歴史から教えられた命の重みを心に刻み、平和の尊さを忘れずに生きていきます。そして将来、どんな道を選んでも、平和を願い、行動できる大人になりたいです。

聖マリア学院同窓会開催

令和8年2月14日(土)

〈総会〉受付14:30～ミサ・総会15:00～会場：カトリック城山教会
〈懇親会〉受付17:30～時間18:00～20:00
会場：ロイヤルチェスターホテル（長崎市赤迫）

<https://forms.gle/5ngREEeCFCHVvfb7> お申込み

〒852-8023 長崎市若草町6番5号 聖マリア学院同窓会事務局
TEL 095-844-1549 詳しくは <http://seimaria.net/> ホームページにて!!

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 大島 和彦
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号

富長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

カリス通信

1月号

カトリック生徒総合補償制度のご紹介

カリスでは、カトリック学校の児童や生徒のケガや病気による入院等を補償する「カトリック生徒総合補償制度」を全国数多くのカトリック学校を通してご案内しております。児童や生徒のケガ等、学校施設内や通学中に限らず24時間補償します。ご案内方法は、保護者の皆様にパンフレットを配布し、任意でご加入いただく制度です。

<補償内容>

- 児童・生徒本人のケガの補償
児童や生徒本人が、急激かつ偶然な外来の事故で、①通院されたとき、②入院されたとき、③手術されたとき、④後遺障害が生じたとき、⑤亡くなられたとき、所定の保険金をお支払いします。海外旅行中のケガ、地震・噴火・津波によるケガ、熱中症、細菌性食中毒(O157等)、特定感染症(SARS、鳥インフルエンザ)も補償します。
- 児童・生徒本人の病気による入院補償
児童や生徒本人が、病気を被り1泊2日以上入院をされたとき、所定の保険金をお支払いします。

カトリック共済システム 株式会社カリス 連絡先 ☎0120-77-0033

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
カトリック共済システム 検索 25TC-003319 (2025年10月作成)
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

- 他人にケガをさせてしまった、他人のものを壊してしまった場合の補償
児童や生徒本人に加え、ご家族の日常生活での偶然な事故により万が一国内外で他人にケガをさせてしまつたり、他人のものを壊したことに
- 児童・生徒が外出時に偶然な事故で携行品を壊してしまった場合の補償
住宅外において児童や生徒の持ち物(携行品)が偶然な事故により破損したり、盗難にあつたりして、損害を受けた場合に保険金をお支払い

本制度は、カリスと契約をしたカトリック学校を対象に、入学手続き書類への同封や入学手続き説明会時にパンフレットを配布するという形で保護者の皆様にのご案内しております。大切な児童や生徒をお守りするための本制度を是非ご利用ください。

※本ご案内は「カトリック生徒総合補償制度」についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である団体の代表の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明の点がありましたらカリスまでお問い合わせください。

私たちが、大澤阿紀子 大西 晃 毛利玲子 お守りします。服部秀昭 川口 薫神父(顧問)

リスク・補償に関して
お気軽に
お問い合わせください

黒瀬の辻殉教祭

心を一つに祈りささげる



設営がなされ午後からの式に臨んだ。6人の司祭と約120人の信徒が心を一つに殉教者に思いをはせた。

説教は当山田教会の主任・竹内英次神父が担当した。竹内師は、前任地・天草の福者であるアダム荒川について、また、パリミッシェンの宣教師が貧しい環境で苦しむ子どもたちの世話のために建て

昨年11月9日(日)クルスの丘公園で、黒瀬の辻殉教祭が川内和則神父(平戸地区長)の司式により執り行われた。前日は雨天だったが当日は曇り空となり、午前中に山田・荻部教会の信徒によって現地の掃除、会場

2025聖年行事の一つ

「聖歌隊の祝祭」の集い

11月24日(月)浦上教会において、「希望の巡礼者」聖年の一連の行事の一つ「聖歌隊の祝祭」が教区典礼委員会の主催により行われた。

参加者は約300人。プログラムは午前と午後を合わせて4部構成。この日はちょうど教皇フラ



「コラル長崎」による

徒と共に歩んだ」ことを語った。

すぐ身近なところに何よりも神と隣人愛を大切に殉教者がいたことを改めて心に留め、今を生きる私たちが神との結びつきを失わず、さまざまな困難に立ち向かう勇氣を持つことができるようお願い、共に祈りをささ

(山田小教区)

練習の成果と信仰を発揮

女性部ソフトバレー教区大会

11月24日(月)、第6回長崎教区評議会女性部ソフトバレーボール教区大会が、三菱重工総合体育館で行われた。それぞれ

の地区を勝ち抜いてきた精鋭12チームで予選リーグを行い、勝ち上がった

コーラスが平本義和師(佐々教会、教区典礼委員)の指揮でなされた。途中パイプオルガンの独奏もあり、普段の典礼で聞かれることのない演奏に耳を傾けた。

午後からはまず「みんな練習」歌ミサの受け答えと、コラル長崎が歌った曲などを練習。最後は、中村倫明大司教司式の聖年のためのミサがさげられた。中村大司教もこの歌ミサのために事前に練習し、最初の十字架のしるしから歌で通

あったが、こんな催しがあったらまた参加したいと、参加者にはおむね好評であった。

短 信

〈神学生への援助物資〉

昨年11月16日(日)平戸地区評議会の代表者5人が長崎カトリック神学院を訪れ、神学生らのために同地区で集めた援助物資と寄付金を届けた。

〈神学生養成援助献金〉

12月2日(火)教区評議会女性部の代表者5人が大

司教館を訪れ、神学生養成援助献金625万5801円(小切手)を中村倫明大司教に手渡した。

〈小神学院創立記念ミサ〉

2025年に創立160周年を迎えた長崎カトリック神学院は、記念日の12月8日(月)に中村倫明大司教主司式のもとミサを行い、司祭、助祭、神学生、信徒ら計30人余が祈った。

結果は優勝・時津教会、準優勝・真手ノ浦教会、3位・大崎教会B、紐差教会の各チーム。開



力強い選手宣誓⑤と接戦で盛り上がった会場⑥

4チームで決勝トーナメントを行った。

子どもの姿に元氣と癒やし

聖歌の集い―長崎3地区

12月7日(日)、中町教会において第30回子ども聖歌の集いが行われた。

近年、多くの教会が子どもの減少に思い悩み、こうした集いへの参加をためらう教会も少なくない中、参加をできるだけ促すために、今回は一つの試みとして「親子の部」が設けられ、子どもたちと一緒に歌うように



トリ―し、10教会から約100人が参加し聖歌を披露した。また、ゲストとしてベ

各地区の英語ミサ共同体が集う

「どこにいても、わたしたちはひとつ」



11月15日(土)県立佐世保青少年の天地で、長崎教区の各英語ミサ共同体が一堂に集い、聖年キャンプ「どこにいても、わたしたちはひとつ」を開催した。

9月末からのセブ島沖地震と台風豪雨洪水による甚大な被害の余波が残る時期に、開催を遠慮する気持ちもあったが、こんな時にこそ祈り、平和な時を分かち合うべきという同伴司祭たちの促しで開催に踏み切った。参

10時頃集合し、キャンプ場はバーベキューの準備からすでにぎやかさに包まれ、昼食、ゲームで盛り上がりは頂点に達した。その後の祈りの集いでは雰囲気は一転。講話を聴き、聖歌に包まれて静かな祈りの場となる。参加者はフィリピンの被災地の方々と復興のため、熱心な祈りをささげた。

参加者の一人は、「今回の集いは長年、幅広く司牧してくださったアルベルト神父が11月末に帰国する節目でもあり送別会ともなった。アルベルト神父に心から感謝したい」と話していた。ミサを終え夕刻には解散となり、別れを惜しみながらも再会を誓い合い、盛会のうちに終わった。

感謝

― 寄付 ―

長崎カトリック神学院

●平戸地区評議会様

― 香典返し ―

長崎カトリック教区

●鼈甲屋浩治様(宝亀・中野)

故ベルナデッタ

鼈甲屋栄子様

長崎カトリック神学院

●大山光子様(鮑の浦)

故ミカエル大山初美様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

トナム人共同体をお招きし、ベトナム人の方々にも聖歌を披露していただいた。どの聖歌も素晴らしく、子どもたちの姿に元氣と癒やしをいただく良い機会となった。

特別賞は、〈親子の部〉城山、鮑の浦、〈子どもの部〉東長崎、滑石。

トナム人共同体をお招きし、ベトナム人の方々にも聖歌を披露していただいた。どの聖歌も素晴らしく、子どもたちの姿に元氣と癒やしをいただく良い機会となった。

トナム人共同体をお招きし、ベトナム人の方々にも聖歌を披露していただいた。どの聖歌も素晴らしく、子どもたちの姿に元氣と癒やしをいただく良い機会となった。

トナム人共同体をお招きし、ベトナム人の方々にも聖歌を披露していただいた。どの聖歌も素晴らしく、子どもたちの姿に元氣と癒やしをいただく良い機会となった。

トナム人共同体をお招きし、ベトナム人の方々にも聖歌を披露していただいた。どの聖歌も素晴らしく、子どもたちの姿に元氣と癒やしをいただく良い機会となった。

トナム人共同体をお招きし、ベトナム人の方々にも聖歌を披露していただいた。どの聖歌も素晴らしく、子どもたちの姿に元氣と癒やしをいただく良い機会となった。

ヨハネ

深堀進 神父

(神言修道会)



アデライダ

朝 ティ子 修道女

(純心聖母会)



フランシスカ・ザベリア

濱口 キク 修道女

(純心聖母会)



又ニロ

杉山 ハツヨ 修道女

(純心聖母会)



新刊良書

★道のさなか 中田藤太郎神父様を想う 著 近藤司



「原爆投下直後の長崎・浦上教会の復興を担い、

お知らせ

〔二葉募金からの支援〕

▼昨年11月18日に発生した大分・佐賀関の大規模火災。長崎教区は12月1日、被災地支援のために大分教区へ200万円を送金した。

ふいつ園

▼日本二十六聖人殉教記念ミサ 2月1日(日)14時、西坂公園(雨天時は中町教会)。※2月5日(木)は西坂・聖フィリッポ教会で連続ミサとゆるしの秘跡が行われる予定。